

# 「介護サービスの質の評価」が 介護現場をこう

身体機能の衰えた高齢者を「お世話する」のではなく、介護予防に取り組み、「自立した生活」を支援することこそが大切になっている。しかし、要介護度や身体機能の改善に対して、一定の成果が出ていることがわからなければ、重度化防止に介護事業者が積極的に取り組む意欲につながりにくい。それでもアウトカム指標を有効に活用し、介護の質の評価に先行的に取り組む自治体や事業者の例はある。本特集はそうした介護の質の評価をどのように行い、現場をどのように変えていくのかにスポットライトを当てる。



も、要介護度、日常生活動作(A DL)、手段的日常生活動作(I A DL)などを身体的な機能の改善のアウトカム指標として、介護予防や重度化防止に役立てようという事業者も存在する。

従来から介護保険制度は、事業者に介護予防に取り組む意欲を喚起しない仕組みだとする意見もある。要介護度の改善が大きな報酬につながりにくいからであり、アウトカム指標も組み込まれていなかったからだ。

しかし、2018年度報酬改定ではADL維持等加算が導入された。これは、ADLの改善指標としてバーセルインデックス(BI)を利用したものだ。BIは、①食事、②車いすからベッド間の移動、③整容、④トイレ動作、⑤入浴、⑥歩行、⑦階段昇降、⑧着替え、⑨排便コントロール、⑩排尿コントロールの10項目で要介護者の身体機能を点数評価するもの。ADL維持等加算では、1年間でBIの点数の改善が認められた利用者が一定数いる事業所に、月に3ないし6単位の加算が認められる。

こうした客観的な指標の導入によって、介護サービスの利用者の身体機能の改善が測定されるようになり、そのことが介護事業者の経営にも良い効果をもたらすなら、介護予防や重度化防止に取り組もうという意欲はますます高まるだろう。そうすることによって、健康で活動的な高齢者が増え、地域や職場において役割を持ち、いきいきと働く高齢者が増えることは、活力ある社会を維持するためにも大切なことである。

本特集では、身体機能の衰えた高齢者の「お世話」のためではなく、自立した生活へと導くものとして、アウトカム評価を活用することに焦点を当てて解説する。さらに、介護予防を促す事業に取り組む自治体の事例として東京都品川区を取り上げるとともに、アウトカム指標を活用して、効果的に利用者の介護予防や身体機能の改善の効果をあげ、経営的にも成功している事業者の事例を紹介する。介護サービスの質の評価を進めることによって、現場がどのように変化するのかを明らかにしたい。

## アウトカム指標によって 介護予防・重度化防止を促進

介護保険法を引用するまでもなく、介護を行う目的は、介護を必要とする高齢者の尊厳を保持し、その人の能力に応じて自立した日常生活を営むことができるように支援することにある。そのため、近年は、高齢になってもできる限り健康で活動的な心身を保てるよ

うに、健康づくりや介護予防・重度化防止に向けた事業に取り組むことが市町村には求められている。昨年度からは「保険者機能強化推進交付金」(いわゆるインセンティブ交付金)も創設され、介護予防・重度化防止に積極的に取り組むことが、自治体には期待されている。

一方で、介護にも科学的な視点が必要と言われて久しい。現在で

## CONTENTS

解説  
介護サービスにおけるアウトカム評価の行方

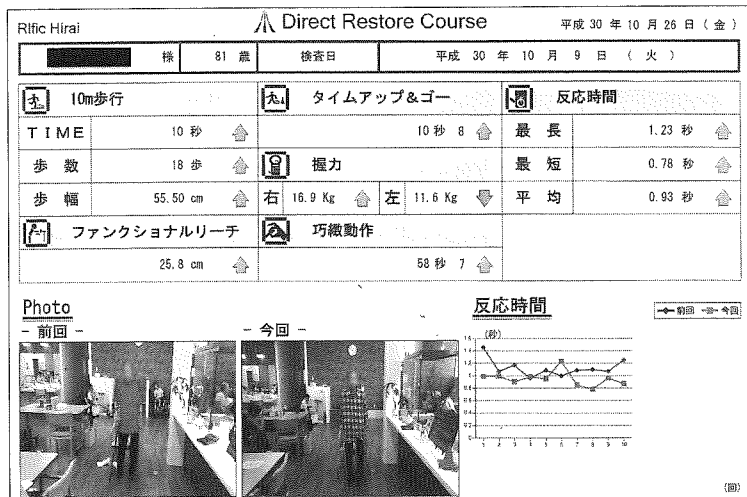
自治体の取り組み 東京都品川区  
サービスの質向上に努める  
介護事業者に奨励金を交付

事例1 特別養護老人ホーム晴楓ホーム 東京都品川区  
できないことの支援から  
身体機能改善へケアの視点が変化

事例2 株式会社風の風 東京都町田市  
社会的自立支援のアウトカム評価を  
可能にするSIOSを開発・活用

事例3 株式会社アール・ケア 岡山県岡山市  
利用者の状態を数値化して把握し  
抜群の機能改善・生活改善につなげる

DRC画面イメージ



DRCでは10m歩行や反応時間などの身体機能のデータを3カ月ごとに計測し、機能改善の状況を把握。リハビリの意欲を喚起し、プログラムの改善につなげる



アルフィックは充実した機材を備え、本格的なマシントレーニングに取り組むことができる

同社の社名のアールはレストア (Restore) の頭文字だ。生活能力を向上させ、自立した暮らしを実現するために、デイサービスでは、**機能改善の要因解明と介護予防対策にも注力**

●取材先データ●  
株式会社アール・ケア  
〒706-0134  
岡山県玉野市東高崎 25-34  
TEL : 0863-73-5085  
URL : <http://www.rcare.jp/>

「今後は、栄養改善加算の取得も視野に入れた総合的な介護予防対策に取り組んでいきたい」と、小馬さんは抱負を語った。

和、マシントレーニングなどアクティブな運動療法を提供。DRCにより3カ月サイクルで10m歩行評価、反応検査、体成分分析などを実施する。その結果から機能改善・生活改善が目に見えてわかり、利用者の達成感や動機づけになる。介護改善度結果は全国平均8・0(18年度介護給付費等実態調査の概況)に対して、アルフィッ

クは36・4と大きく上回る。客観的な評価事業への参加で自社の課題を発見・認識

アルフィックは2004年にスタートし、インセンティブ事業が始まる以前からアウトカムを重視しているが、同事業に参加することで新たな気づきもあった。「それまでは自社のなかでどれだけ質の高いサービスを提供できるか、結果を残せるかと考えてきましたが、比較の材料がなく、世間ではどのレベルにあるのか判断しに

くかったです。客観的評価に基づき上位事業所を選ばれると自信につながります」と、小馬さんは語る。スタッフも結果を追い求める姿勢が強くなり、新たな信念も芽生えたと満足する。

同事業への参加で課題も見つかった。5つの評価指標の中で「外部研修への参加状況」と「認知症高齢者の受け入れ人数」が他事業所と比較して伸び悩んでいるという。「大規模で運営しているので、スタッフの多くを外部研修に出すのは簡単ではありません」と打ち明ける小馬さん。「そこをクリアして上位事業所に入ると、行政からお墨付きをいただいたことで利用者さんに存在を認知してもらえ、スタッフの励みにもなります」

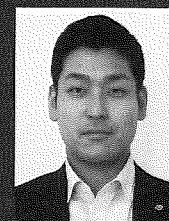
マシン・物理療法、個別リハビリ、グループリハビリを駆使して活動量、身体機能・生活能力の向上をめざしている。在宅での活動力を上げていく取り組みも重視し、家族と連携した自宅での自主トレーニングも確立させた。

「何が要因で良くなったのか、プロセスの部分のデータを蓄積し分析することで、改善の理由の解明をめざします」と話す小馬さん。そのために心身機能改善や家族・在宅を含めた関わりなど数多くの事例を集め、学会発表も行う。

同社は介護予防にも力を入れ、地域の人を対象に月2回、ワンコインで参加できる運動教室を開催。「今後は、栄養改善加算の取得も視野に入れた総合的な介護予防対策に取り組んでいきたい」と、小馬さんは抱負を語った。

事例3 株式会社アール・ケア 岡山県岡山市

利用者の状態を数値化して把握し 身体機能改善・生活改善につなげる



株式会社アール・ケア 取締役・通所介護事業部長 小馬誠士さん

岡山市は介護予防の取り組みを奨励するため、「岡山型持続可能な社会経済モデル構築総合特区」の一環として、デイサービス改善インセンティブ事業に取り組んでいる。同事業所において15～18年度の4年度連続でアウトカム評価上位事業所となったのがデイサービスセンターアルフィックである。利用者の生活を元気にし、抜群の実績を誇る取り組みを明らかにする。

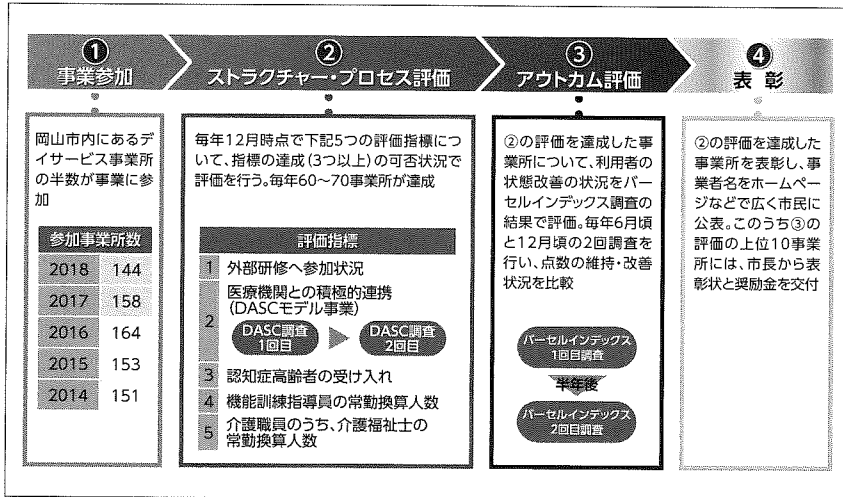
岡山市では、2014年度からデイサービス改善インセンティブ事業に取り組んでいる(図表1)。同事業は、参加した市内デイサービス事業所を「外部研修への参加者数」、「医療機関との積極的連携(対象人数)」、「認知症高齢者の受け入れ人数」、「機能訓練指導員の常勤換算人数」、「介護福祉士の常勤換算人数」の5指標で評価し、3つ以上が参加事業所の平均以上なら、指標達成としている。さらに、15～17年度は日常生活機能評価により、18年度はバーセルインデックスにより指標達成事業所をアウトカム評価指標達成事業所およびアウトカム評価上位事業所は表彰されるとともに、アウトカム評価上位事業所には奨励金10万円が付与される。

株式会社アール・ケアは、同事業において15～17年度の3年度連続でデイサービスセンターアルフィック東川原が、18年度にアルフィック西大寺がアウトカム評

価上位事業所になれば、抜群の実績を残している。同社は「自社サービスのブランド化」を経営理念に掲げ、岡山県玉野市や岡山市を中心に県南部で介護・医療サービスを展開。そのなかで10事業所あるアルフィックは、運動を通じて心身を健康にし、生活を元気にするライフ・フィットネスをテーマにしたリハビリテーション特化型デイサービスとして運営されている。

「生活の質を高めるレストリング・ケアにおもてなしの心」をプラスして、利用者様の生活を元気にするサービスを提供しています」と語るのは、同社取締役で通所介護事業部長の小馬誠士さん。「レストア(レストリング)は「取り戻す」の意だが、アルフィックが同事業で好成績を収めている一因は、「本当に良くなった、元気になる身体」とわかりやすい身体

図表1 岡山市のデイサービス改善インセンティブ事業の仕組み



機能評価システム「DRC(Direct Restore Course:ダイレクト・レストア・コース)」を導入したことにある(画面イメージ)。

アルフィックでは理学療法士・作業療法士が個別運動プログラムを立案し、筋力増強練習、バランス練習、筋ストレッチ、疼痛緩